

第2回定例会

加藤博司議員が一般質問

区民の立場にたって区長を質す

「消費税増税に対し様々な意見があるのは認識している」と区長

第二回定例会が6月21日から7月2日の日程で行われ、25日の一般質問には、日本共産党中央区議団を代表して加藤博司議員が質問しました。

日本共産党の「提言」示して論戦

加藤議員は「日本共産党は消費税増税に反対するだけでなく、それに変わる財源を示している。『能力に応じた負担の原則にたった税財政の改革』と『国民の所得を増やす経済の民主的改革』を同時に進めることが社会保障の充実と財政危機を打開する道」と日本共産党の経済「提言」を示したところ、区長は「能力に応じた税負担のあり方が検討される」「負債が負債を生む財政体質を直していくことを審議しているところ。見守っていきたい」との見解を示しました。

【加藤議員の質問項目】

- ① 「社会保障と税の一体改革」について
- ② 「子ども・子育て新システム」について
- ③ 介護保険制度と在宅介護について
- ④ 生活保護について
- ⑤ 「先行営業施設」と豊洲新市場予定地の土壌汚染について
- ⑥ 中央区防災計画について

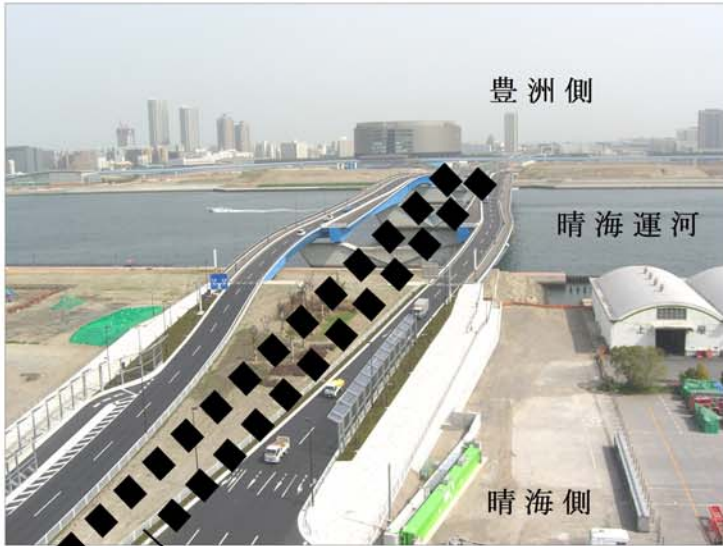


本会議で区長に質問する加藤議員 = 6月25日

お元気ですか!
志村 たかよし です



首都高晴海線（豊洲～晴海間）の工事費98億円が250億円に！



晴海大橋の上に計画されている高速道路（点線のイメージ）

首都高（右側）に申し入れる「都民連」と「中央区の会」。左は私08年



首都高速晴海線はいま、湾岸線から豊洲出入口までできています。今後、晴海まで（Ⅰ期工事）、さらに都心環状線新富出口まで（Ⅱ期工事）高速道路を通す計画があります。

首都高晴海線（豊洲～築地間）の計画については、私（志村）が事務局長をしている「臨海部問題・中央区の会」は「無駄な高速晴海線計画は中止すべき」と運動にと

りくんでいます（左写真参照）。また、6月7日の環境建設委員会で、私は「わずか1・2kmの豊洲～晴海間を98億5600万円もかけて建設するのは、まったく意味がない中止すべき」と批判していました。

ところが、この事業費約98億円が150億円ほど増加し、約250億円にもものぼることが明らかになりました。

自治体の保育実施義務をなくす「新システム」を批判

加藤議員は、民主・自民・公明3党による修正合意によって国会で押し通そうとしている「子ども・子育て新システム」について質問しました。

この「新システム」の修正について「新システムの根幹は、区市町村の保育実施義務をなくし、施設と保護者の直接契約、保護者への現金給付の制度の導入にある。国と自治体が責任を負う現行保育制度（公的保育制度）を解体し、保育を市場化する。

これは、6月7日に、臨海都民連と臨海部問題・中央区の会が東京都市整備部長への「都市高速道路晴海線に関する解明要求について」の申し入れで判明したので

150億円も増えた理由は、「暫定2車線（上下各1車線）だけでは安全上問題があるとして、警察と協議を重ね路肩を拡幅し緊急車両が通れるようにするため、橋桁を新たにもう一本増やすなどの計画変更をせざるを得なくなった」というものです。

このような高速道路の基本的なことを見逃して（わざと？）予算を低く見積もり、工事遂行の中で経費を2・5倍にする姑息なやり方は許せません。工事計画は、白紙に戻すべきです。

るもの。基本的な枠組みは変わって「子ども・子育て新システム」と批判し「自治体の保育実施に義務がなくなることは、自治体の保育の公的責任がなくなる」と同時に、子どもの保育を受ける権利を奪うことになると考えるが、区長の見解は「質問しましたが、区長は「修正案の内容が詳細に示されていない」と答弁しました。



「意見」「要望」など、お気軽に「連絡ください」(03-6360-0309)